

Q

幼・保・小連携教育に向けて

A

具体的な方策を探り、取り組む

金泉婦貴子 議員

質問一 小1プロブレムについて。

二 就学時における幼稚園児と保育園児の違いについて。

三 幼稚園と小学校、保育園と小学校との交流連携について。

四 幼稚園、保育園と教育センターとの交流について。

五 幼・保・小連絡協議会について。

答弁一 (教育委員長) 幼少期か

ら各家庭の自分の子どもにきちんとしつけを行っていくことが大切。

その後、保育所や幼稚園、小学校の先生方との連携により対策を図っていくことで、よりよい状態に改善していくことが必要。

二 個々の子どもの特性による差異が大きいのと思われる。

三 すべての小学校で、近隣の幼稚園、保育所とともに、年2回か

ら4回程度の園児と児童の交流を行っている。また、職員間の連携として情報交換会を開催している。

四 組織的な交流は行ってないが、幼稚園からの依頼で、保護者との面談の仕方や発達障害のある児童への対応の仕方等、子どものかかわりを持って協力をしている。

五 幼・保・小連絡協議会準備会を関係機関の理解を得て、近日常に開催する予定である。

◎その他の質問 海洋センターの利用について

鶴ヶ島の政策力

希望に満ちた鶴ヶ島を目指す

長谷川 清 議員

質問一 鶴ヶ島市の現状認識について。

二 鶴ヶ島市の政策力について。

三 鶴ヶ島市の将来の姿について。

答弁一 (市長) 財政力の面では、公債費や債務負担行為の超過で、すぐに破綻するようなことのない財政基盤があるが、経常的な支出の増加により財政運営の硬直化が進んでいる。政策の面では、おおむね「生活者の視点に立った市民にとって住みやすいまち」を進め

てきたと認識している。

二 政策力とは、市民福祉の向上を具体的に実現する施策を遂行する力だと認識している。これから



市庁舎正面玄関

も、「だれもが生きる喜びを実感できるコンパクトな人間中心のまち」を柱にして、希望あふれる鶴ヶ島づくりを進めていく。

三 鶴ヶ島市の高齢化は全国でも類を見ないスピードで進むことを念頭に置き、少子高齢化時代に適応できるまちづくりを進める必要がある。そのため、子育てしやすいまち、市民がともに支え合い助け合う心豊かなまちを目指すこと、生活基盤の整備とともに、誰もが移動しやすい公共交通体系の整備などを重点施策の柱としていく。

また、その実現のためにも、引き続き行財政改革に取り組んでいく。



幼・保・小連携「ハッピー・キラキラ祭り」(栄小学校)